

フォーラム：講演

授業をめぐる省察と対話のあり方を教職大学院から考える ―渡辺貴裕先生講演要旨―

徳永 俊太
(京都教育大学)

講演要旨：

教職大学院において省察はどのように行われるべきか。コルトハーヘンの ALACT モデルに即して考えると、「行為の振り返り」から「本質的な諸相への気づき」に進むことが肝要になる。そのためには、「文脈はどのようなものだったのか」という大きな枠組みのもと、Do（何を行なったのか）、Think（何を考えたのか）、Feel（何を感じたのか）、Want（何を望んだのか）という問いをたて、教師の立場と学習者の立場の両方から考えていくことが必要になる。「対話型模擬授業検討会」は、このような考え方のもとに組織され、授業を行なってみて起きたことをもとに、それぞれの立場から感じたこと・考えたことなどを出し合い対話することで、授業者にも他の参加者にも新たな気づきをもたらされるような検討会である。従来型の模擬授業検討会との違いを示すと以下のようなになる。

表 1 従来型模擬授業検討会と対話型模擬授業検討会の違い

	従来型	対話型
授業時の各メンバーの役割	授業者役は用意してきた計画を効果的に遂行してみせる、学習者役はその良し悪しを評価する。	授業者役・学習者役として、「今ここ」で生じる出来事を経験する
検討会時の授業者役と学習者役との関係性	授業者役は教わる、学習者役は評価したり助言したりするという非対称な関係	それぞれの立場から感じたこと考えたことを出し合うフラットな関係
気づきの性質	既存の枠組みの中での気づき	既存の枠組みを超えた気づき
学ぶもの	授業の手順や指導技術	授業を行ううえでの考え方

（当日の配布資料をもとに徳永が作成。詳しくは参考文献に示す渡辺・岩瀬（2017）を参照）

「対話型模擬授業検討会」は、東京学芸大学教職大学院の 2015 年度のカリキュラム改革に伴って導入されたもので、カリキュラムの中核となる「カリキュラムデザイン・授業研究演習」の時間を使って行われ、研修校での実践や大学での実践報告などとも関連付けられる。「カリキュラムデザイン・授業研究演習」は 2 コマ連続で行われ、開講される曜日は他の授業が開講されていない。検討会を繰り返して慣れてくると、発言 1 回あたりの分量が少なくなり、全体発言回数が多くなる、特に序盤、思い付いたことを（まとまりがなくても）パッパッと発言する

ようになる。そこから「本質的な諸相への気づき」に至るような問いが生まれてくるのである。この検討会を通して院生が学んでいることは、「実践から学ぶ」学び方そのもののトレーニングであるとも言えよう。こうした学びをもとにして、院生と学外とのコラボレーションをして、研修や授業研究を行なっている。そこで得た学びも大学院の授業に還元されている。

今後の課題としては、教科教育学との橋渡し、基礎的な授業スキルの保障、「総合型教職大学院」への移行などが挙げられる。

補記：東京学芸大学教職大学院との交流

2019年度のフォーラムでは、東京学芸大学大学院教育学研究科（教職大学院）の渡辺貴裕先生をお招きし、ご講演をいただいた。本年度はこのフォーラムだけではなく、1年間を通して継続的に、渡辺先生と東京学芸大学教職大学院の院生、本学の教員と院生で交流を行なってきた。教員同士だけではなく、院生同士の交流を積極的に行うことで、院生がどのように考え、どのように感じたのかを知り、カリキュラム開発に生かすことをねらった。この日のフォーラムにも東京学芸大学の院生の参加があり、本学院生との議論、交流が積極的に行われた。

筆者（徳永）も、院生とともに「対話型模擬授業検討会」を参観した。講演要旨にもあるような、普段使うような短い言葉のやりとりから、深い省察につなげるという院生の学びを見ることができた。合わせて印象に残ったのが、院生が模擬授業でうまく行きそうな授業ではなく、チャレンジをする授業をしていたことである。検討会が評価ではなく、探究を軸にしていることが、失敗を恐れない院生の姿につながっているのではないだろうか。

見学によって得た知見を幅広く共有するために、11月には東京学芸大学の院生8名を京都教育大学に招待し、「対話型模擬授業検討会」を含めた授業研究会を開催した。この際に模擬授業を行なった本学の院生は、「対話型模擬授業検討会」に意図を汲み取り、その時に自分が課題だと思っていたことに関わる授業を行なってくれた。

本年度の交流を通して、教員との関わりだけでは見られないような本学院生の学びの姿をみとることができた。今後行われる教職大学院のカリキュラム改革においても、こうした院生の姿を念頭に置いておきたい。

参考文献・参考サイト

- ・ 渡辺貴裕・岩瀬直樹（2017）「より深い省察の促進を目指す対話型模擬授業検討会を軸とした教師教育の取り組み」『日本教師教育学会年報』第26号、pp.136-146。
- ・ 渡辺貴裕（2019）『小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ 授業づくりの考え方』くろしお出版。
- ・ 渡辺貴裕編（2019）『日本教師教育学会第28回研究大会 大会校企画② 「対話型模擬授業検討会」の実演とそれをめぐって 報告書』 *日本教師教育学会（<https://jsste.jp>）のHPの「学会関連企画報告書」からダウンロード可。動画へのリンクもあり。